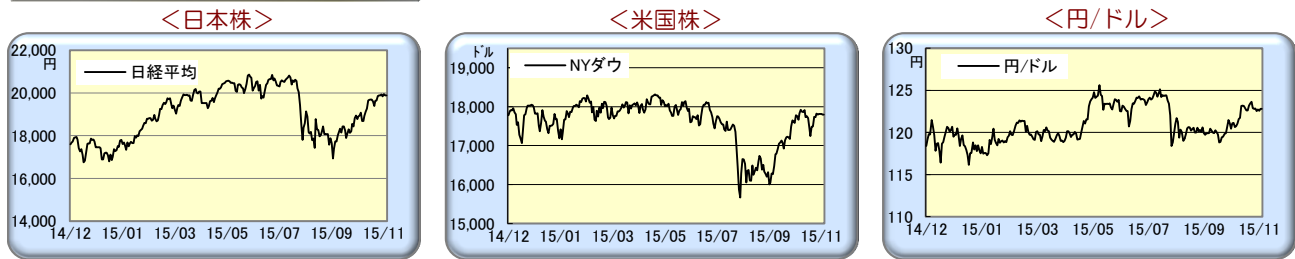


1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2014/12/31	2015/10/30	2015/11/27	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	17,450.77	19,083.10	19,883.94	20,952.71	2015/6/24	9,308.35	2012/11/28
NYダウ	ドル	17,823.07	17,663.54	17,798.49	18,351.36	2015/5/19	12,765.32	2012/11/28
円/ドル	円	119.78	120.62	122.80	125.86	2015/6/5	81.69	2012/11/28

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り ~ 日経平均は20,000円を目前にして方向感に乏しい展開 ~

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+4.13円(+0.02%)、TOPIXが▲8.73ポイント(▲0.54%)となり、日経平均は20,000円を目前にして方向感に乏しい展開となりました。業種別(東証33業種)にみると、鉱業、海運業、医薬品など12業種が上昇する一方、空運業、パルプ・紙、銀行業など21業種が下落しました。連休明け24日の日本株市場は、小幅に上昇して始まりまし。しかし翌25日には、トルコによるロシア軍機の撃墜やチュニジアでのテロ発生など地政学的リスクへの懸念から下落しました。26日には、米国で発表された10月新築住宅販売件数(前月比)が市場予想を上回る良好な結果だったことなどを受けて円安ドル高に進行したことなどから反発しました。週末、日経平均は20,000円まであと6円に迫る場面がみられたものの、中国株市場の急落などを受けて下落し、19,883.94円で引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目		前回
11月30日	Mon	日本	鉱工業生産(前月比)	10月	1.1%
		米国	シカゴ購買部協会景気指数	11月	56.2
		国際	気候変動枠組み条約第21回締約国会議(GOP21)(パリ、11日まで)		
12月1日	Tue	日本	設備投資(前年比)	7-9月期	5.6%
		米国	ISM製造業景況指数	11月	50.1
		中国	製造業PMI	11月	49.8
12月2日	Wed	米国	財新中国製造業PMI	11月	48.3
			イエレンFRB(米連邦準備理事会)議長の講演		
			ページブック(地区連銀経済報告)		
12月3日	Thu	米国	ADP雇用統計	11月	182千人
			イエレンFRB議長の議会証言		
			製造業受注指数	10月	-1.0%
12月4日	Fri	米国	ISM非製造業景況指数(総合)	11月	59.1
			ECB(欧州中央銀行)政策理事会		
			非農業部門雇用者数変化	11月	271千人
12月4日	Fri	米国	失業率	11月	5.0%
			貿易収支	10月	-408.1億ドル

決算発表予定 他	日本	決算発表:12/1 伊藤園 12/3 エイチ・アイ・エス
----------	----	------------------------------

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し ~ 日経平均20,000円の攻防が続く ~

今週の日本株市場は、週末にかけて①追加緩和の内容が注目されるECB(欧州中央銀行)政策理事会(3日)、②12月のFOMC(米連邦公開市場委員会)における利上げの判断に大きな影響を与える米雇用統計の発表(4日)など重要なイベントを控え、ポジションを一方方向に傾けにくい環境となる中、建玉が積み上がった行使価格20,000円(12月限)の日経平均コールオプションを巡り、日経平均20,000円の攻防が続くと予想します。その他注目材料として、米国では1日のISM製造業景況指数や2日のページブックに加え、12月のFOMCでの利上げを予想する上で重要な判断材料となるイエレンFRB議長の講演(2日)及び議会証言(3日)、中国では1日の製造業PMIなどが挙げられます。